＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
RIKKYO UNIVERSITY
VOLUNTEER CENTER MAIL MAGAZINE
2021.3.3
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

こんにちは。立教大学ボランティアセンターメールマガジン３月３日号です。
一日の気温の変化はまだ大きいものの、少しずつ冬の寒さが和らいできました。植物は、厳しい冬の間にどれだけ地中に根を張り養分を吸収したかで、春になった時の花の咲かせ方が変わるといいます。人間も、自然の法則の中で生きている以上、同じことがいえるのではないかと思います。
新型コロナウイルス感染拡大の中、世界中がこのような事態になり、こんなに長く厳しい冬が続くとは想像できませんでしたが、どんなことが起こっても、地に足をつけ、知恵を蓄え、春に大輪の花を咲かせることができるよう、冬は必ず春になることを信じ、前向きに過ごす姿勢を忘れないでください。冬は春を迎えるために絶対に必要なものだったのだと、後で振り返ることができるように。

CONTENTS
（１）　ボランティアセンターよりお知らせ
（２）　不定期シリーズ～ vol.3　人生哲学
（３）　陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報
（４）　オンラインで参加できるボランティア・イベント等の紹介

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

いやり、「うつさない」・「うつらない」を常に念頭において、活動を敢えて中止・延期することも、ボランティア精神に基づいた行動であると考えます。
　なお、学生ボランティアサークルの課外活動については、現時点では極力対面で実施するボランティア活動を控えるようにしてください。詳細は、学生部からの課外活動ガイドラインを参照してください。ミーティングなどを対面で行う場合は、マスク着用等の感染防止策を徹底し、「うつさない」・「うつらない」を常に念頭において行動してください。
　自己責任においてボランティア活動を行う場合であっても、上記の通り、今本当にその活動が必要なのかどうかを十分に考えてから行動するようにしてください。
　このような緊急時においては、学生の皆さん一人ひとりの心がけが何よりも大切となります。マスク着用やこまめに手指消毒等の基本的な感染予防策はもちろんのこと、日常での行動についても、感染リスクが高いと思われるものはできる限り回避するよう努めてください。
　「他者に寄り添う」皆さんの思いは、たとえ直接的なボランティア活動ができなくても必ず何らかの形で人を支える力になります。今この状況下で、あえて直接的な関わりや、不要不急の外出を控えることも、相手を思いやることにつながることをどうぞ忘れないでいただきたいと思います。

※もし、３月７日で現在の緊急事態宣言が解除された場合は、本学学生部として新たな課外活動のガイドラインを出す予定です。ボランティア活動についてもガイドラインに準ずることになりますのでご留意ください。

==========

（２）不定期シリーズ～ vol.3　人生哲学

==========

　大学時代は、「自分に何ができるか？」「自分はどう生きるか？…」と、これまで以上に考える機会が多くなります。そんな時、誰かの人生哲学や生き方に触れることが、進むべき道につながるヒントになるかもしれません。自分の心の動くものや自分なりの一歩を踏み出すことへのきっかけを一緒に探してみませんか？

『一隅を照らす』　　中村 哲 医師

中村先生の取り組み
　医師である中村哲氏は、1984 年にキリスト教団体の派遣医としてパキスタン北西部ペシャワールで医療支援開始。ハンセン病を中心とする医療活動に従事し、その後、隣国アフガニスタンにも診療所を展開し山岳地帯医療過疎地で診療活動を持続的に行いました。
　そんな中、2000 年の歴史的な大干ばつで、アフガニスタンでは水不足が原因の下痢や皮膚病が蔓延し、命を落とす子どもが後を絶たず、医療だけではどうすることもできない現実にぶつかります。「人々の健康を改善させるには、根本から流れを変えるしかない。医師を 100 人連れて来るより、水路を 1 本作った方がいい。」と、医師でありながら、独学で土木技術を学び、干ばつに襲われたアフガニスタンの大地での水路建設に踏み切ります。住民の環境衛生と食糧自給のため、飲料水・灌漑用井戸事業を始め、農村復興の大がかりな事業を現地の人たちと試行錯誤しながら進めました。これにより、砂漠化した大地に緑がよみがえり、65 万人もの人々の暮らしが変わりました。
　しかし、2019 年、いつもの通り、用水路の工事現場に向かう途中で凶弾に倒れ、帰らぬ人となりました。先生の亡き後も、約 100 人の現地スタッフが水路延長等の事業を継続しています。
　現地の住民が自らの手で農地を耕し、日々の食糧を得るために、ともに汗を流して井戸を掘り、用水路を建設することを通じて、人々の命を救ってきた中村先生の一連の行動は、持続可能な開発目標（SDGｓ）に他ならず、30 年以上も前から、世界の辺境の地で自分にできることを貫いてきたといえます。

長い期間の中で、数え切れないくらい騙されたり裏切られたりもしながら、平和のために人を信じ続け、その人の真心をつかんでいきました。中村先生の一番の喜びは、現地の人の幸せな姿を見ることで、きれいな水で体を洗い皮膚病が治った子供たちや、豊かに実った小麦を収穫しうれしそうに見せてくれる村人たちの姿が、先生の活動の原動力となっていたそうです。

中村先生が大切にされてきたこと

中村先生が好んで使われ大切にされていたのが、「一隅を照らす」という言葉でした。「一隅＝片隅」は、あまり目立たない場所かもしれませんが、そんな所を「照らし明るくする」。困っている人・支援が必要な人たちの力になることで、自分自身も周りの人たちも明るい気持ちになっていく。自分が今いる場所で、自分にできることを一生懸命行う…そのようなメッセージが込められています。

今いる場所で希望の灯をともすことを実践されてきた中村先生の生き方を学ぶことで、私たちも、自分の身近なところで「一隅を照らす」という考え方や行動ができるのではないでしょうか。育った背景や環境によって、人は気づくものも様々だと思いますが、自分なりの誰も気づいていない一隅に焦点を当て、「何とかしよう」と取り組んでみる…。

人々のいのちを守り育ててきた中村先生の 30 年以上にわたる地道な「一隅を照らす」支援。そこに込められた想いに触れることで、「私がやらなくて誰がやるのか」と、自分が心の底から打ち込もうと思えるものに出会うひとつのヒントになればと思います。

～中村先生の熱い想いや活動が綴られたボラセンスタッフおすすめの書籍～

『人は愛するに足り、真心は信ずるに足る――アフガンとの約束』
澤地久枝、中村哲 著（岩波書店）

『天、共に在り アフガニスタン三十年の闘い』
中村哲 著（NHK 出版）

==========

（３）陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報

==========

みなさん、こんにちは！陸前高田サテライト事務局です。

東日本大震災から間もなく 10 年が経過します。

東日本大震災を受け、これまで多くの立教生が様々な活動を行ってきました。陸前高田サテライト事務局では、改めて東日本大震災という出来事に向き合うために、活動に関わった元立教生に当時の活動や思いを尋ねました。今回は 2012 年に立教大学に入学、解散寸前だった学生復興支援団体に入り、試行錯誤しながら活動を繋いだ元立教生の体験談です。

後半は岩手大学と共同で運営する「陸前高田グローバルキャンパス」の新企画への参加者募集です！

渡辺鴻樹さん（わたなべ・こうきさん。2015 年度経営学部卒業）

私が東日本大震災復興支援活動に参加し始めたのは大学１年生の時です。震災のあった年は高校 2 年生で何もできませんでした。ただ、父親の実家が福島ということもあり、何かできることをしたいという気持ちはずっと持っていましたので、大学生になったら絶対に活動に参加すると心に決めていました。

いざ、学内で活動を探してみると思ったよりも参加できるものが少ないというのが実情でした。復興支援のフェーズも変わり始め、それまでのガレキの撤去や泥の掻き出し等の身体を使うようなハード面でのニーズは少なくなっており、お茶っこやイベント開催など

ソフト面での活動や、現地の方の話を聞くツアーなどが多くなってきていたように思います。
　そのような中で、自分はありがたいことに学内の復興支援団体に参加することができ、先輩方の協力もあり、その年の冬までに学内、学外での活動に参加させていただく機会を得ることが出来ました。石巻の海岸での遺骨探し、子どもたちに勉強を教える活動、現地団体の活動にお邪魔させていただいたり…様々な活動に参加することができました。
　その中で、自分が感じたことは、それぞれの場所、人によってニーズは違うし、まずはそれを知ること、その関係性を作ることが大事なのではないかということです。ただ、同時にそれがとても難しいということも感じていました。自分自身は誰かと短い時間で関係性を作ることが不得意ですが、かといって現地に入って長く活動するほどの勇気もありませんでした。当時はこんな中途半端ならやらない方が良いんじゃないかとかなり悩みました。
　それでも、モヤモヤしながら活動に継続的に参加していくと、じわじわとあることに気付かされました。それは、月並みではありますが、大学生が来てくれるだけで喜んでくれる人が多くいるのだということです。
　深く関わってくれる人も大事ですが、色々な人が来てくれることそれ自体も大事なことなのではないか、そして、そんな多くの人と一対一の関係性を築くことができれば、逆にもっと学内や関東でも出来ることが増えてくるのではないかと思いました。自分以外の誰かと関係性を作れるような「機会」を作ることであれば、自分でもできるのではないか、それならば、現地に行き話を聞いて終わるのではなく、現地の人との関係性が作れるようなものにしたい、スケジュールはあまり決めずに現地での出会いを大切にしようと、様々なことを考えて、先輩方と現地の方々の協力のもと、企画を練り上げることができました。
　今、振り返ると粗が多くあり、ボランティアセンターで参加者募集チラシを置いてもらえないか交渉した時には、厳しい指摘を受けたのを覚えています。現地での活動も成功したかは分かりませんが、無事何事もなく終わることができ、活動に参加してくれた学生の何人かは復興支援団体のメンバーになってくれました。
　その後、この活動は後輩たちがより良いものに練り上げ、様々な学生が現地の方々と関わり、その経験を元に学内でも写真展や講演会などを企画してくれました。また、現地の方々とのつながりも続いていて、自分の当初の思いを図らずも後輩たちが実現をしてくれたことを本当に嬉しく思っています。
　当たり前ですが、何でもできるスーパーマンはいません。誰かに頼ることや誰かに託すことは悪いことではなく、自分ができることを考えて行動することが大事だということを気付かされました。今はコロナ禍で、学生の皆さんは大変だと思いますが、自分なりにできることを考えて、一人で考えずに誰かに頼ってもらえればと思います。頼られて嫌な人はいないと思いますので。

復興支援団体で企画した活動に参加してくれた立教生や先生、現地の方々と。

:・゜。:・゜ *:・゜。*:・゜。*:・゜。*:・゜。*:・゜。*:・゜。*: *:・゜。*:・゜
*:・゜。
陸前高田の地元ニーズと大学生の「やりたい！」をマッチング
「陸前高田イタルトコロ大学」参加団体募集！
:・゜。:・゜ *:・゜。*:・゜。*:・゜。*:・゜。*:・゜。*:・゜。*: *:・゜。*:・゜
*:・゜。

みなさん、こんにちは！立教大学は陸前高田市協力のもと岩手大学と共に交流活動拠点「陸前高田グローバルキャンパス」を運営しています。このたび、「陸前高田グローバルキャンパス」では、「陸前高田イタルトコロ大学」を開始します。「ボランティア」や「支援」とは一味違う新たな関係づくり、あなたも参加してみませんか。

■「陸前高田イタルトコロ大学」とは！？
陸前高田市内外の住民や団体、そして大学関係者の双方にとってメリットを作り出すことを目指して、地元サポーターの協力を得ながら、両者のニーズとシーズをマッチングする仕組みです。

■参加方法は？
まずは学生団体やゼミ・研究室単位で登録フォームから登録をお願いします。登録したからと言って、必ず何かしなければならない、ということではありません。登録していただいた方にはLINEグループに参加していただき、地元からニーズが出てきたら皆さんにその情報を提供して、「やりたい」と思ったら手をあげてもらいます。逆に、皆さんからの企画も、地元の方とのマッチングを試みたいと思っています。

さらに詳しく知りたい方は以下をご覧ください。ご参加お待ちしています！！

【登録方法・詳細】「陸前高田イタルトコロ大学登録団体等募集！」をご参照ください。
https://portfolio.rikkyo.ac.jp/pub/downloadAttachedFile/?entryPk=36253&filePk=490213
※学生団体、研究室、ゼミ単位での登録をお願いします。個人での参加を希望する場合は、以下までご相談ください。
【お問合せ】立教大学陸前高田サテライト事務局（rrs@rikkyo.ac.jp）
【主　催】陸前高田グローバルキャンパス陸前高田イタルトコロ大学事業企画実施委員会

＊お問合せ　立教大学陸前高田サテライト事務局　rrs@rikkyo.ac.jp
＊陸前高田サテライトの取り組みを発信中
公式Instagram（@rikkyo_rrs）https://www.instagram.com/rikkyo_rrs/

==========
（4）オンラインで参加できるボランティア・イベント等の紹介
==========
和光市ボランティアセンターより
「わこらぼフェス」企画運営チームメンバー募集中！
http://www.city.wako.lg.jp/home/kurashi/siminkatudou/_20145.html

「わこらぼフェス」の開催は2021年5月30日（日）ですが、現在、企画運営プロジェク

トチームのメンバーとコンテンツ制作を進めています。
オンライン配信・動画制作の経験のある方、興味のある方、ぜひご参加ください。

＜企画運営プロジェクトチームワークショップ日時＞（オンライン開催）
（※【第１回】【第２回】は既に開催済）
【第３回】　３月　７日（日）14 時～17 時
【第４回】　４月 11 日（日）14 時～17 時
【第５回】　５月　９日（日）14 時～17 時
【第６回】　５月 23 日（日）14 時～17 時

＜お問い合わせ先＞
和光市役所市民活動推進課 協働推進担当
TEL ：048-424-9120
MAIL：c0200@city.wako.lg.jp

（編集：ボランティアコーディネーター／広瀬）

立教大学ボランティアセンター

◎池袋キャンパス
場所：５号館１階
開室時間：月～金　９：00～17：00
土曜日　９：00～12：30
◎新座キャンパス
場所：７号館２階
開室時間：月～金　９：00～17：00

※新型コロナウィルス感染拡大のため６月１日以降は短縮開室しております。
月～金　10:30～15:30
土曜日　10:30～12:30（新座キャンパスは原則として閉室です）
職員・コーディネーターともに交替で出勤・在宅勤務のため、休日授業日は、池袋・新座ともに最小人員で開室、授業休講日は、池袋・新座ともに閉室とさせていただきます。

◎ホームページ
http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular_activities/volunteer.html
◎メールアドレス
volunteer@rikkyo.ac.jp
◎TwitterID @rikkyo_volucen
http://twitter.com/rikkyo_volucen/
◎Instagram
https://www.instagram.com/rikkyo_vc/?hl=ja
配信停止を希望の場合は以下の Google Form を送信してください。
https://forms.gle/xFtZVvd94Je1nJwm7

(C)2019 RVC all rights reserved.